

日立生化学自動分析装置の歩みとご紹介

講師：茂手木 尚哉（株式会社日立ハイテクノロジーズ 医用アプリケーショングループ）
司会：笹野 勝年（JA 埼玉県厚生連 熊谷総合病院）

日立では、1968年にディスクリット方式の基本型となる国産初の生化学自動分析装置（日立400形自動分析装置）を発表、1970年に発売を開始しました。以来、1反応ライン多項目分析を可能にしたランダムアクセス方式、後分光多波長光度計による2波長測光方式、世界の標準的方法となった全反応過程測光方式、試薬ピペッティング方式など、新技術を導入して多くの自動分析装置を開発して参りました。

最新機種であるLABOSPECTシリーズ自動分析装置では、サンプル詰まり検知機能、超音波攪拌技術など最新の技術を搭載しました。

今回は、400形からLABOSPECTシリーズまでの日立自動分析装置の変遷とともに、装置に採用した新技術についてご紹介致します。



日立400形自動分析装置



LABOSPECT 006形自動分析装置

